

令和2年度

事業報告(案)

社会福祉法人白老宏友会

指定障がい福祉サービス事業

多機能型事業所 ポプリ

## 目 次

I、総 括	1～3
II、就労継続支援B型事業	4～6
III、生活介護事業	7～8
IV、日常生活支援	9
V、健康管理	10
VI、給食業務	10
VII、管理業務	10～11
VIII、利用関係状況報告	12
添付資料 年間活動一覧	13～14

## I 総括

昨年度を振り返りますと、一昨年 12 月に中国武漢で最初に確認された新型コロナウイルスは、瞬く間に世界に蔓延し、世界中で多くの人々の命が失われました。国内においては、初となる緊急事態宣言が発令され、突如として発生したウイルスは全国を震撼させ、自粛生活を余儀なくし、これまで当たり前と思われていた日常生活や経済の動きが一変するなど、世界的に多難な一年でありました。新型コロナウイルスは、全国で猛威を振るう中、医療機関、福祉施設においては、クラスターが発生し、医療崩壊寸前になるまで切迫した状況が続き、社会情勢を鑑み、当法人においては、対策委員会を設置し、施設におけるクラスターの事例や国が示す指針を基に、対策マニュアルや保健衛生品などの備蓄を行い、日常的な感染防止、発生時の対策に備えてきました。こうした情勢の中、人命第一を課題とし『新しい生活様式、北海道スタイル』の定着に努め、感染予防対策を最優先に事業の運営を実施してきました。今年 4 月正式に決定した米国ファイザー社が開発したワクチンの接種は、当初国が予定していた計画より遅れが生じていることに加え、変異株の拡大により今後も先行きは不透明なものであり、現在国内で最も注目されているオリンピック、パラリンピックの開催においては、賛否の声がある中、更なる感染拡大や状況の悪化への懸念を残すばかりです。

こうした社会情勢の中、当初 4 月 24 日に開業を予定していたウポポイ（民族共生象徴空間）は、その後の感染拡大、緊急事態宣言により延期となり、結果 情勢が落ち着きはじめた 7 月 12 日に開業となりました。感染防止対策として入館時の検温、消毒や来館者数の制限などが厳重に行われる中、ウポポイの開業に合わせ全国的にテレビ、ラジオ、報道機関による PR 宣伝が行われ、白老町に多くの観光客が回遊し、大町に構える『ベーカリーショップななかまど』においても賑わいが見られました。ウポポイ開業後は国内では 5 館目、北海道では初の国立博物館に全国各地より来館者が訪れ、新型コロナウイルスが一時的に落ち着いた時期には 2000 人を超える日もありました。令和 2 年度の一大事業であり、当法人としては、2 店舗目となるテイクアウト店『sweets café ななかまど イレンカ』は、館内で気軽に飲食を楽しめるテナントとして主力製品『クネネチュプ（カップチーズケーキ）』『パピリカパイ（アップルパイ）』をはじめ、自家焙煎珈琲、同法人愛泉園が制作したオリジナルアイヌ文様のグッズが好調に売上を伸ばし、開業より繁忙期である 10 月までの 4 カ月間で約 1680 万円を売上、11 月以降は閑散期と同時にコロナウイルスの感染拡大の影響により落ち込む中、店舗総売上約 2470 万円を収めることが出来ました。しかしながら、当初予定していた以上に、新型コロナウイルスによる損失は大きく、就労事業の収支結果においては、当初見込んでいた売上目標には程遠く、ウポポイ開業の延期及びコロナ禍により、初期投資費用の回収が出来なかったことに加え、営業自粛による『ななかまど』の売上げの落ち込み、札幌販売の中止などが重なり、大幅な減収となりました。結果、総売上約 8140 万円に対し、590 万円の支出増となり、工賃積立金 200 万円を補填するも 390 万円の増収減益となりました。利用者の月額平均工賃については、以上の情勢に伴い行政による緩和措置がとられ、36,400 円の目標に対し、報酬単価枠である 35,000 円～45,000 円内である 35,099 円を支給し収めることが出来ました。

就労事業については、可能な限り引き続き売上げの向上、工賃財源の確保、安定経営を課題とし、パン、菓子、餅などの製品開発の研鑽や宣伝活動を行ってきましたが、前文にもある通り、新型コロナウイルス感染拡大の影響は想定していた以上に大きいものでした。蔓延は収ま

ることはなく、第2、3波が訪れ、北海道においては、札幌市を中心に往来の自粛などが発令され、『ななかまど』については、その都度、感染防止対策として日曜日営業の自粛を行い、『イレンカ』においては、職員のみで営業を行うなど利用者また職員の感染防止に可能な限り努めてきました。

ポップリ事業所内（パン工場、給食事業）の活動をはじめ、清掃部においては、公共の施設内での活動ということもあり、感染予防対策に十分留意し取り組んできました。

生活介護については、引き続き『個別支援』に課題を置き、療育活動、創作活動、知育活動、レクリエーション、生産活動など従来の活動に加え、個々の利用者の特性や体力面を考慮し、新たな活動内容を模索し感染防止対策を考慮しながら創意工夫を凝らし充足した生活となるよう取り組んできました。令和元年度より看護師業務を明確化し、利用者の日常的な健康管理や緊急時の対応及び、毎日のバイタルチェック、健康診断の総括及び、基礎疾患を抱える利用者の状態の把握、傷病時などの対応については、定着し安定した環境を構築することが出来ました。

また、継続的に健康療法として免疫力を高める効果があると言われている音読、笑いヨガを毎朝、昼食前に実施するなど健康体操などを実施してきました。生産活動においては、既存の活動に加え、自所製品の製造を主体とした事業の定着を目指し、令和元年度に自家焙煎機の増設を行い、令和2年度 国立博物館の開業に向け準備を進めてきました。ウポポイ内『sweets café ななかまど イレンカ』にて挽きたての珈琲の提供や、珈琲豆の販売を実施し、中でもイレンカ専用開発したオリジナルブレンド珈琲は評判が良く好調に売り上げを伸ばすことが出来ました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、就労事業同様、ななかまどの売上の落ち込みや、卸し販売では心のリゾート海の別邸ふるかわ、インフォメーションセンターの売上が減収。工賃日額 300 円の支給は維持できましたが、結果、前年度対比 65 万円減収し 332 万円の売上となりました。

GH より通所している利用者におきましては、地域生活支援センターとの連携を図り、定期的なケース会議や情報交換を密にし、安心して充実した生活を送ることができるよう取り組んできました。在宅の利用者については、連絡ノートや送迎時に保護者と情報を共有しながら協力体制の中支援を行って来ました。

事業収入については、日常的な感染予防対策及び啓発の効果もあり、新型コロナウイルスの感染者は勿論、他感染症などの蔓延もなく全体的に利用率は良く、平均区分の向上に新設された加算を加え増収しましたが、結果 資金収支計算書の通り、機械及び車輛の更新や、新型コロナウイルスの影響による就労事業収入の落ち込みにより、事業費と工賃積立金の取り崩しを行い落ち込み分を補填しました。

期末資金残高については、将来的な事業開拓に備え、4000 万円を新規事業に積み立て、結果、当期資金収支差額 -17,170,631 円 当期末支払い資金残高 73,485,251 円となり、就労事業収入においては、最終補正予算 86,390,000 円に対し、1,665,073 円の減額となりました。

設備整備については、機械設備として食堂の冷凍冷蔵庫の老朽に伴う更新の他、事務所の共有サーバー、一部パソコンを更新。店舗内の整備として、ななかまどエアコン及びイレンカの冷蔵ショーケースの設置。ウポポイの活動専用車として公用車（N-BAN）を購入。建物に係る整備については、ポップリ正面玄関の老朽に伴う吊り引き戸の修理及び鍵の取替。

事務所玄関受付窓口は老朽に伴い更新。災害時の安全面に備え枠付き2層式の強化ガラスに整備しました。年末年始の大寒波により水道管凍結による漏水の修理。生活介護においては、焙煎機増設に伴う焙煎室間仕切りの増設の他、利用者特性を踏まえ、安全性と利便性を考慮し休憩室のドアを増設しました。

災害時対策としては、引き続き地震、津波を想定した避難訓練を実施しました。毎年実施してきた救急救命講習や食品衛生講習会、北海道歯科衛生協会など講師を招き取り組んできた各講習会は、新型コロナウイルス感染防止のため、令和2年度につきましては中止としました。

口腔内ケアについては、これまで学んだ知識を生かし看護師を中心に日常的なケアに努めてきました。

職員の研修への参加については、感染防止対策として今年度は出来る限り自粛し、定例会や各部署において可能な範囲で学習を実施してきました。

職員の育成については、以前より課題としている近い将来を見据えた定年退職者などを含む予測を立てながら、専門職としての知識、技術の継承などを含め計画的に体制の確保に努めてきました。また、人材育成については、当事業所に限らず法人規模が大きくなるほど、職員のモラルの適正化や職務に対する意識の向上の課題が大きくなってきており、幹部職員をはじめ組織全体で意識改善に努めていく必要があります。人材育成、相互育成を踏まえ、支援の質の向上、安定運営への取り組みを重要視してきました。また、人事考課制度については、引き続きインセンティブの付与を基本に人材育成を目的とし、職員の状態の把握や、課題の整理、スキルの向上に努めてきました。その他、LINEアプリを活用しタイムリーな情報の共有の強化、法人、事業所の統制を図るため『報・連・相』の定着、連携とチーム力向上を課題に取り組みできました。虐待問題については、全国的に未だ事件は絶えることなく発生しており、法人においては、年2回の自己チェックリストを継続し、ポプリ内では定例会を通じて『虐待防止法、障がい者差別解消法』の振り返りと事件の事例を基に、職員全体で意識を深めてきました。毎年度末に実施してきた個別支援計画書に伴う三者面談については、情勢を鑑み、郵送や電話での対応を行いました。

以上、令和2年度につきましては、新型コロナウイルス感染拡大により、苦難な一年でありましたが、ウイルスが変異を続け治療薬が開発されていない中、まだまだ先行き不安な心情にあります。引き続き利用者・職員の安全を第一に感染予防対策を課題に置いていきます。

また、法人全体の動きとしては、生活介護の需要が高まる中、利用定員は満度に等しい現状にあり、その一方で利用者の高齢化が進んでいる現状と重度者支援への課題を踏まえ、中期計画の策定や、それに伴う事業の構築が求められています。将来を見据え安定した事業の推進を図るため、引き続き人材育成と人材確保を課題としていきます。

## II、就労継続支援B型事業

### ■就労事業概要

利用者主体の事業形態を前提に定め、就労活動の充実と豊かな生活の提供を課題に置き、利用者工賃還元額の向上と、充実した日中活動サービスの提供に努め、その財源となる就労活動収入の安定と増収を目指し、事業を推進してきました。令和2年度では国立博物館ウボポイ（民族象徴空間）内の歓迎広場にて当事業所が出店する事が決定し、町内外の来場者、インバウンドを踏まえた観光需要を意識したテイクアウトのお店として「sweetscafe ななかまどイレンカ」がオープンしました。開業に伴い100万人の観光客が白老町に訪れる事が予測され公共機関等の整備やインフォメーションセンターの設立など、町全体が活気と賑わいを持てる事が期待していた事から、就労食品事業（給食部・清掃部含む）の目標売上を99,300,000円に設定しました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりウボポイ開業が4月より7月に延期されたほか、緊急事態宣言の発令に伴う外出自粛や日曜日営業の休業、きたキッチン札幌店の出店中止などにより、見込んでいた店舗売上や取引先の売上げが減収した事から、令和2年度については、積立金等を取り崩し収入実績が86,096,469円（昨年度74,657,764円）となりました。支出については89,999,229円となり、収支差額が今年度3,902,760円のマイナス計上となりました。利用者工賃については工賃変動積立金資産を取り崩して20,849,260円（前年度実績20,890,564円）を支出し、目標としていた平均工賃月額36,400円に対し一人当たりの平均35,099円（前年度36,142円：1,043円の減額）となりました。

### ■食品事業

令和2年度については、引き続きお客様に愛される店舗づくりを目指すため「低価格で美味しいクオリティーの高い製品提供」を行い、前年度の店舗売上総額以上の増収を目指して課題（店舗販売、製造、衛生管理、健康管理）を立てて積極的に取り組んできました。また、毎月一回の就労会議を開催し、課題の振り返りや売上状況などを確認して、全体で共通認識を持ちながら協力してきました。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、利用者さんや店舗の来店客に対して安心・安全に利用できるよう感染症対策の強化を図り運営に努めてきました。白老東高校の売店販売については、新型コロナ感染拡大の影響などで売上が見込めず今年度内で終了としました。

ポプリ内パン工場については、ななかまど店舗や取引先（病院関係、学校給食、老人ホーム、保育園、各飲食店や宿泊施設）のパン、菓子類、餅類の製造を行ったほか、国立博物館ウボポイ（民族象徴空間）内のsweetscafé ななかまどイレンカにて販売する製品（主力商品、お土産製品）の製造を行ってきました。試験的に始めた楽天市場（インターネット販売）については冷凍あん餅やパン類の予約販売を実施した結果、採算を踏まえ年度内で終了としました。札幌きたキッチンの外部販売については、新型コロナウイルス感染拡大に伴い4月のみの販売となりました。製造面においては、国立博物館ウボポイ（民族象徴空間）の開業に伴いインバウンド含む多くの観光客が白老町に訪れるのを見据え、原料の確保に努めたほか、効率的に作業が進められるよう、製造計画を作成し実施してきました。また、お客様から飽きられないよう季節に合わせた新商品の開発や菓子のギフトセット企画を行い、ななかまど店舗の売上げ維持に努めました。利用者さんについては、特性を踏まえながら技術の向上に努め、新たな作業等に順応していけるよう支援してきました。

ななかまどについては、引き続き町内をはじめ町外のお客様に喜んでもらえるよう「丁寧」を意識して取り組んできました。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として日曜日営業の自粛や、入店時の対応（人数制限、入店時の検温、手指消毒液の設置、マスクとフェイスガードの着用、感染対策のご協力アナウンスなど）を行いました。また、町内の外部販売についても、社会情勢を鑑みながら感染症対策を講じて活動してきました。活動収入の安定と増収を目指すため、木田製粉株式会社から技術者を招いて新商品の開発と技術研修を行ったほか、季節に合わせた新商品の販売やななかまど28周年記念感謝祭を実施しました。感謝祭では、店内の3密接を避け、感染予防を図るためイベント企画内容を見直し、令和2年度についてはななかまどオリジナルデザイントートバックに新作パン（生角食等）が入った感謝記念セットを期間数量限定で販売しました。

sweetscafé ななかまどイレンカ店については、国立博物館ウボポイ（民族象徴空間）の開業が新型コロナウイルス感染拡大の影響で4月24日より7月12日に延期されました。開業までの期間は、担当利用者さんと職員で機械や販売・接客等のオペレーションを行い、何時でも営業開始ができるよう準備を進めてきました。開業してからは利用者さん2名～3名と職員2名～3名の体制で協力し合いながら主力商品である「チーズカップケーキ」と「アップルパイ」のほかに、ソフトクリーム、自家焙煎珈琲、菓子土産製品など、「ここでしか食べられない」付加価値のある製品を販売しました。また、感染症対策として入店制限、手指消毒、マスクの着用、フェイスガードなどを行い、開業半年で22,006,913円の売上がありました。

以上の事を踏まえ、将来的に利用者が安心して『働ける環境を確立』し、豊かな生活を営むための『工賃財源の確保』を保持していくためにも、民間企業同様の視点を持ち、時代の流れを絶えず察知しながら新しい物に目を向けた事業運営と危機感や探求心を持ちながら取り組む姿勢が不可欠であると考えます。令和3年度についても、引き続き感染症対策を行いながら以上の事を課題に置き、更なる発展が遂げられるように、引き続き全体が共通認識を持ち定期的に課題の整理を行いながら着実に前進していけるよう努めていきます。

## 1) 利用者支援

利用者主体の就労現場を意識し、利用者個人が就労意識や自立心を高め、就労活動を通じて社会性を養っていけるような環境づくりに努めました。就労活動において、個人が抱える問題や悩み、また課題を明確にし、利用者一人ひとりが想いを主張し、目的に則した形で活動を行っていけるように、定期的に利用者会議を行うなど、個人目標を立ててもらい活動を行ってきました。

個別の支援では一人ひとりの障がい特性を理解し、得意とする作業内容を選定し技術の習得と向上に努めました。技術の習得や成長には個人差は見られますが、社会性及び作業性共に個々の成長が見受けられました。

令和2年度については、更に利用者の主体性を高め、同時に作業意欲の向上を目指していくため、新作パンの開発企画として、利用者が考案したパンを職員がサポートしながら開発し、販売を実施しました。その結果、個人のモチベーションを高め活気に繋げることが出来ました。

また、新型コロナウイルス感染症状況を見ながら就労学習会（外食マナー、活動の振り返り、目標の設定、新商品の研鑽など）や見学会（原料の仕入れ先企業訪問）を企画し、感染症予防

(マスクの着用、手指消毒、検温など)に努めながら各部署少人数で行い、社会性と就労意識向上に努めました。

## 2) 衛生保持、危機管理

食品を取り扱う部署としての意識を高めるため、日常的に必要な情報、知識等を適宜周知し食中毒や異物混入の防止に努めました。また安全な食品提供を行うため、作業場内の衛生保持に努め、白衣の点検、うがい手洗いの徹底を図りました。

危機管理においては、基本的に危険な機器を扱う部署でもあるため、機械の使用については職員の許可がある者に限定すると共に、取り扱いの注意を随時促すなど予測できる危険、事故については日常的に職員が目配り事故防止に努めました。

## 3) 設備整備

Sweets café ななかまどイレンカ店：

①ショーケース設置

②公用車 1台 ホンダ (N-VAN)

給食部 : 冷凍冷蔵庫 1台

## ■給食事業部

就労事業として給食業務の実施を行い、利用者3名の個々に合った作業を提供することにより、技術の習得や責任感が育ち、出勤率の向上を図ることができました。また、給食会議に参加することにより職員との意見交換ができ、作業意欲の向上、社会人としての在り方を考えるきっかけとなりました。利用者さんの健康面を考慮し、特別食(肥満食、刻み食など)の提供を行ってきましたが、毎年行っている行事食(焼肉・流しそうめん)については、新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止となりました。

白老東高等学校売店販売用の弁当製造を行い、収益の確保を目指すと共に利用者の主体性を育むことに重点を置き取り組みました。

作業面においては、安全面に配慮し、衛生管理の徹底を図りました。特に食中毒に細心の注意を払い、手洗い、消毒、適正な処理等、事故防止に努めました。

調理以外の作業として布巾縫いを行い、実生活でも役立つ練習にもなりました。

## ■施設外就労

令和2年度も施設外就労として総合福祉センターいきいき4・6の清掃事業務を行ってきました。

### ① 清掃事業部

白老町より委託事業を請け白老町総合保健福祉センター(いきいき4・6)の日常清掃業務作業の活動を実施しました。地域住民が日常的に利用する公共施設内で行う委託事業であるため、地域との繋がりを大切に、評価、信用性を第一に意識するなど、業務上における事故防止などの安全に配慮し、日常業務に努めました。また、業務を通じて利用者個人が社会性や自立心を養い、作業技術の向上を図っていくため、月一回の支援者会議を行うなど、日常的に支援、指導を実施しました。



### Ⅲ、生活介護事業

個々の障がい特性やニーズに応じて「個別支援」に基づき活動を提供し、安定した日常生活の構築を目指し、支援を実施しました。生産活動では、珈琲豆焙煎・野草茶製造作業、下請け作業等を行う中で過度な負担とならないよう、創作・外出・余暇・療育・知育活動を取り入れる事で作業意欲の維持や向上、気分転換を図り、安心して活動が行える様に支援をしています。また、療育活動の環境を整え、軽運動（電動ウォーカー、エアロバイク等）・外出（散歩・芝生を利用した活動）・知育を主とした活動を行い情緒の安定を目指しました。医療体制では、ポプリ専従の看護師を2名体制で配置をする事で、利用者の健康管理や安全面、緊急時の対応に配慮しています。

新型コロナウイルス感染症が全国に蔓延している中、国の緊急事態宣言の発令やそれに伴う施設活動の自粛もありましたが、感染症予防対策のマスク着用や手指の消毒、検温を実施し、安全対策を講じて活動に取り組みました。

#### 【生産活動】

##### ■自家焙煎珈琲

令和2年度当初は新型コロナウイルス感染症予防から国の緊急事態宣言を受け、不要不急の外出自粛が提唱された事で、「ななかまど」の売り上げや、「心のリゾート海の別邸ふるかわ」等、取引業者からの受注が減少する状況が見られました。7月に緊急事態宣言の解除から、年度後半に入り受注状況が次第に回復し、自家焙煎珈琲事業では約110万円の売上を計上しています。また、ウポポイ（民族共生象徴空間）「Sweets café ななかまどイレンカ」が4月からの開業予定でしたが、国の緊急事態宣言により延期が続き、7月の開業になりました。店舗でのオリジナルブレンド自家焙煎珈琲は人気も高く、安定した受注と販売が見られ、約40万円の売上を計上しています。

取引先においては、年度当初は緊急事態宣言を受け、「心のリゾート海の別邸ふる川」の受注が安定をする状況が見られませんでした。解除後は毎月常に一定して受注が来ており、年間を通して昨年度と同様の約40万円の取引となりました。また、札幌での販売は中止された事から、どさんこプラザ、丸井今井きたキッチンでの収益はありませんでした。

##### ■野草茶

年度当初は新型コロナウイルス感染症予防から、国の緊急事態宣言を受け、「ななかまど」での販売の落ち込みや、「心のリゾート海の別邸ふる川」の受注の減少に繋がりましたが、緊急事態宣言解除を受け次第に回復し、固定顧客を含めて安定した注文・販売がありました。また、新たに白老町インフォメーションセンターが開設され、クマササ茶・カキドオシ茶・黒豆茶・エント茶の取引が開始されました。年間を通して総額約40万円の売上を計上しました。

##### ■フードパックラベル貼り作業

ダイエットクックより、安定したラベル貼り作業の依頼があり、同法人施設「みらいえ」と作業を分担して行っています。令和2年度は昨年とほぼ同額の466,195円の売上を計上しています。

## ■印刷作業

名刺作成作業では、法人内・役場・町内民間業者を中心に注文を受けています。点字の名刺が多岐にわたって定着してきたものと思われませんが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症予防の為、不要不急の外出自粛と企業間での人の往来がなくなった為、年間を通して名刺の受注が減少し、22,100円の売上を計上し減収となっています。

以上、令和2年度の収入は3,326,819円となり、昨年度収入3,992,771円と比較して665,952円の減収になっています。

## 【創作活動・療育活動・余暇活動・外出活動】

創作活動では「子供の日」「母の日企画」「父の日企画」「ハロウィン企画」「バレンタインデー企画」「ホワイトデー企画」等、季節に合わせて活動を実施しています。共生型事業所「はあもにい」の調理室を利用した「料理教室」は、新型コロナウイルス感染症予防対策の観点から、実施することが出来ませんでした。

療育活動については、軽運動（ウォーキング・エアロバイク・電動ウォーカー）や、屋外での活動（芝生での軽運動）、看護師指導による姿勢や体幹を整える為の体操、口腔内ケアに努めた発声練習等を継続して実施しました。また、プール活動については新型コロナウイルス感染症による国の緊急事態宣言を受け、7月まで活動を中止としましたが8月から11月まで実施しています。活動時は感染症予防対策の為マスクの着用や手指の消毒、検温を実施し、安全対策を講じながら行いました。各活動については適度な運動時間の確保・気分転換に努めることが出来、情緒の安定につながっています。

余暇活動のカラオケでは4班に分けてポプリ2階食堂を使用して、毎月カラオケを実施しています。苫小牧のカラオケボックス「ゆめっくす」には新型コロナウイルス感染症予防から、施設を利用した活動は休止しています。歌うことで情緒の安定や気分転換にもつながり、余暇の充実を図ることが出来ました。

外出活動は、季節に合わせ「水芭蕉見学」「花見」「果物狩り」を企画・実施しています。例年春先に行っているイチゴやサクランボの「果物狩り」が、新型コロナウイルス感染症から、9月に実施される運びとなり、壮瞥の「くだもの農家 浜田園」に行き、ブドウ狩りを行い情緒の安定や気分転換につなげました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、感染予防の観点から、各種屋内外の行事や活動については、その時の状況を鑑みて、マスクの着用や手指の消毒、検温を行い、活動を実施しました。

#### IV、日常生活支援

- ・基本的な社会生活（挨拶・返事・マナー・ルール）の確立

日中活動を通じて社会的なマナーや身だしなみなどについて毎月一回の全体会や自治会を通して必要な情報を提供し、利用者自ら問題を提起し話し合いが出来るよう支援してきました。

- ・自治会活動への支援

自治会活動に関しては定期的に役員会を開催し、誕生会や全体会などの企画や運営について利用者主体に実施していけるよう必要に応じてバックアップをしてきました。行事などで役割に当たった方はそれぞれ責任を持って取り組んでいる様子が見られます。

また、今年度も引き続き活気を持って日々の生活が送れるよう月間表彰を行い、個々の頑張りが評価されモチベーション向上に繋がっていきました。

- ・行事の実施

令和2年度の行事については、新型コロナウイルス感染症の拡大により、社会情勢を鑑みて集団で行う大規模（バーベキュー、流しそうめん、一泊旅行、新年会、忘年会）などの行事を中止し、各部署で少人数の行事を企画して感染症予防対策を行いながら実施してきました。

- ・行事内容

日程	主な行事内容
4月	
5月	・ 仲間の会総会（各部署で開催） ・ 各部署 桜見学
6月	・ ポプリ全体バーベキュー（中止）
7月	
8月	・ ポプリ全体流しそうめん（中止）
9月	・ 28周年記念感謝祭 ・ 生活介護 果物狩り
10月	・ 就労合同社会見学（1班、2班、3班）in 壮瞥町：原料仕入れ先見学
11月	・ 就労合同社会見学（4班）in 壮瞥町：原料仕入れ先見学 ・ ななかまど清掃部合同学習会（1班、2班、3班、4班）：外食マナー学習
12月	・ 忘年会（中止） ・ ななかまど清掃部調理学習会（1班、2班）：新商品の研鑽 ・ パン工場給食部合同集会（活動の振り返り等） ・ ポプリ看護師による口腔内ケア（就労） ・ ポプリ看護師による口腔内ケア（生活介護）
1月	・ 仲間の会新年会（中止）
2月	・ パン工場給食部合同学習会（1班、2班、3班）：外食マナー学習 ・ ななかまど清掃部決起集会：作業への意識向上と目標
3月	
自治会活動	・ 自治会活動については、利用者が中心となり各種事業を円滑に進められるようバックアップを行った。大規模な行事は新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止とし、活動については各部署にて実施。 <各部署にて行った主な活動> ・ 毎月一回誕生会と全体会                      ・ 月間表彰の実施。

## V、健康管理

年1回の健康診断を実施しました。その他、食後の歯磨き習慣、毎月の体重測定などを行いました。健康診断については、検査結果により、本人、保護者、家族、又GH利用者は看護師や地域支援センターあぷろと連携しながら必要に応じて再検査や受診を勧めるなど支援を行いました。

インフルエンザ対策（予防接種・室内の保湿）やノロウイルスをはじめとする感染症、特に昨年度より流行している新型コロナウイルスの感染防止策として、マスクの着用や手洗い・手指消毒の励行、毎日の検温、微酸性電解水の噴霧・アルコールによる消毒を行いました。また、新型コロナウイルスに効果があるといわれているプラズマクラスター空気清浄機を各所に設置しました。

歯科衛生講習会は、感染予防により歯科衛生士の派遣依頼は中止しましたが、看護師を中心に職員が、定期的にブラッシングの仕方や仕上げ磨き、歯ブラシの状態などを確認しています。

苫小牧保健所の職員を招き、利用者さん向けに行っている食品衛生講習会も今年度は中止しました。

## VI、給食業務

安心、安全な給食提供に配慮し実施しました。利用者への嗜好調査などを実施し、出来る限り要望にこたえ、季節感のある食事や行事食などの工夫を行いました。

給食製造は食品事業給食事業部への作業委託とし、利用者3名に対し職員2名～3名の体制で技術支援を行いながら進めました。

その他では、例年行われている行事食の提供（流しそうめん、BBQ等）を感染防止から中止しましたが、町内飲食店の協力のもと感染対策を行いながら、外食のマナー、新商品へのインスピレーション、接客の学習など、各部署ごとに企画を立てて外食支援を実施しました。

## VII、管理業務

日常業務では、業務効率、安定した事業運営のための研鑽を行いながら事務処理の適正化を目指し業務を遂行してきました。法人内部研修（事務部会）を重ねて事業所相互の協力と連携をはかり、様々な課題提起とスムーズな問題解決に繋がるよう取り組みました。

施設管理では、作業場と休憩室のドアの増設、正面玄関ドアの鍵の取り換えと吊り引き戸修理、1階男子トイレ手洗い場自動水栓取替、水道凍結漏水による天井裏等の修理、事務所窓口の引き戸更新などの営繕を行いました。また、食堂の冷凍冷蔵庫の入れ替え、共有サーバーの更新、支援課長のPC更新を行いました。

研修関係では、新型コロナウイルス流行のため様々な研修が中止となり、派遣しての研修参加はありませんでした。

衛生・健康管理面では、毎日朝・夕方の館内消毒（トイレ、共用部分を中心に）を徹底し未然に防ぐよう心がけました。冬季のインフルエンザ流行時期を前に集団予防接種（任意）、微酸性電解水の噴霧等でノロウイルスはじめ感染症の予防強化、加湿器による活動室の湿度保持などの工夫を含め、施設内での感染防止に力を入れて行いました。昨年度より流行している新

型ウイルス感染予防も含めさらに強化し、備品消耗品の確保・備蓄に努めました。

防災・危機管理に関しては、津波を想定しての避難訓練を実施し利用者誘導の際の注意点や問題点を確認し、災害時の安全確保・心得、避難時の感染対策など学習する機会を持ちました。例年白老町消防より講師を派遣いただき、職員対象に救急救命講習を行っていましたが、今年度は中止しました。

広報活動では、従来の法人機関紙の発行、ホームページ、フェイスブック・インスタグラムを活用し店舗商品・イベントの宣伝など当施設の情報を発信しました。

苦情解決・虐待防止などに関しては、日頃より些細な利用者間のトラブルや悩み、家族の相談などに対し職員が都度時間をおかず直接対応し調整・解決すること、フォローアップを継続して行うことで、苦情としての取り扱いはありませんでした。

実習等に関しては、コロナ禍ではありましたが養護学校の実習、専門学校単位実習を受け入れました。行政からの紹介による利用者の受け入れも、法人内事業所との連携を図り、面談やケース会議・体験実習を行いながら対応し、利用・契約に繋がりました。

なお、日中一時支援事業の利用はありませんでした。

## VIII 利用関係状況報告

就労活動	収支	総収入	84,733,247 円 + 積立取崩	2,690,000 円 + 補助金・繰入金	2,000,000 円
		(就労B	86,096,469 円 + 生活介護	3,326,958 円)	
		総支出	91,259,900 円 + 固定資産	2,117,661 円 + 年度末積立	0 円
工賃支払い総額		22,986,000 円	(前年度実績 :	23,075,004 円)	
就労B事業	月額平均額	1名	35,099 円	生活介護	月額平均額 1名 6,762 円

### <定員構成>

\*3年3月31日現在

	定員	契約数	男	女	入所者	退所者	備考
生活介護	20	27	18	8	0	1	退所：百尾
就労継続支援B	40	49	35	14	1	1	入所：大女寮、退所：青柳
合計	60	76	53	22	1	2	

### <年齢構成>

	10代	20代	30代	40代	50代	60歳以上
生活介護	0	9	7	5	5	1
就労B	0	8	8	23	8	2
合計	0	17	15	28	13	3

最高齢者 71歳 / 最年少者 21歳 / 平均 40.30歳

### <在籍年数>

入所年度	2	1	30	29	28	27	26	25	24	23
生活介護	0	2	1	3	1	2	3	1	1	0
就労B	1	2	0	1	2	1	0	3	0	2
合計	1	4	1	4	3	3	3	4	1	2

平均

生活介護 9年 8か月

就労B 14年 9か月

入所年度	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12
生活介護	2	1	1	0	2	1	0	0	0	3	3
就労B	1	4	0	1	0	2	3	1	1	11	13
合計	3	5	1	1	2	3	3	1	1	14	16

### <障害区分>

療育手帳	A	B	なし	精神	身障
生活介護	17	9	1	(2)	(4)
就労B	12	37	0	(0)	(5)
合計	29	46	1	0	(10)

区分	2	3	4	5	6
生活介護	0	5	8	9	5
就労B					
合計	0	5	8	9	5

### <居住別>

	自宅	GH
生活介護	13	14
就労B	23	26
合計	36	40

生活介護平均区分 4.48

### <出身地別>

	白老町	登別市	苫小牧	札幌市	室蘭市	千歳市	江別市	伊達市	三笠市	浦河町
生活介護	15	1	9	1	0	0	0	0	1	0
就労B	22	6	9	2	5	1	2	1	0	1
合計	37	7	18	3	5	1	2	1	1	1

## 令和2年度の動向

	施設業務関係	就労・生活事業関係	各種研修・行事その他
4月	<p>辞令交付式・永年勤続表彰 各種会議（支援会議、ケース会議、幹部会 議、職員会議、部署会議、給食会議、看護師 会議、運営会議、管理者会議） 会計事務所任意監査</p>	<p>利用者1年度期末手当支給 カラオケ・創作活動 就) きたキッチン新札幌販売・イレメンカ開業準備 (開業延期)</p>	<p>利用者全体会 利用者誕生会</p>
5月	<p>法人監事監査 理事会 各種会議</p>	<p>よもぎ採取 生) さくくから見学・創作活動・カラオケ 就) イレメンカ開業準備・花見</p>	<p>利用者全体会 利用者誕生会</p>
6月	<p>各種会議 評議委員会 防火設備点検</p>	<p>生) 創作活動・カラオケ 就) よもぎ栽培用土地整備 ウポポイ内覧・研修・避難訓練</p>	<p>利用者全体会・総会 利用者誕生会 クローン作戦</p>
7月	<p>各種会議 会計事務所任意監査 食堂冷蔵庫更新 健康診断</p>	<p>生) カラオケ・珈琲焙煎機増設 就) ななかまど夏のアフェア実施 イレメンカ開業</p>	<p>利用者全体会 利用者誕生会</p>
8月	<p>各種会議 ポプリななかまど臨時休業（15～17日） 法人監事監査 衛生協会巡回</p>	<p>利用者夏期手当支給 生) カラオケ・プール・創作活動・果物狩り 就) イレメンカ夏期営業 ご近所野菜市</p>	<p>利用者全体会 利用者誕生会 防災訓練 経専実習生受入</p>
9月	<p>各種会議 理事会 会計事務所任意監査 前期モニタリング会議</p>	<p>生) カラオケ・プール 就) 木田製粉技術研修 ななかまど28周年記念感謝祭 ご近所野菜市</p>	<p>利用者全体会 利用者誕生会</p>

10月	各種会議 電気室点検	生) プール・カラオケ・創作活動 就) 社会見学・白老中職場体験受入	利用者全体会 利用者誕生会
11月	各種会議 法人幹事監査 会計事務所任意監査 インフルエンザ予防接種	生) プール・カラオケ・創作活動 就) HBC 取材・学習会・利用者会議	利用者全体会 利用者誕生会
12月	各種会議 消防設備点検 年末挨拶回り	各部署忘年会企画 利用者冬期手当支給 カラオケ 生) お歳暮餅事業・年末餅事業 就)	利用者全体会 利用者誕生会
1月	各種会議 年頭所感 会計事務所任意監査	各部署新年会 生) カラオケ・創作活動 就) ななかまど初売り	利用者全体会 利用者誕生会
2月	各種会議 支援計画モロリング会議	生) カラオケ・バレンタイン企画 就) ななかまどバレンタインフェア 決起集会・学習会	利用者全体会 利用者誕生会 仲間の会節分・バレンタイン コロナウイルス感染症対策WEB研修
3月	各種会議 会計事務所巡回監査 法人内部監査 二者面談	各種見積提出 たな卸し 生) カラオケ・ホワイトデー企画 就) 保健所視察	利用者全体会 利用者誕生会 仲間の会ホワイトデー
4月		利用者2年度期末手当支給	